

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

明日の14日年越し。小正月の前日にあたることから、年越しの日として祝う習慣があった。「寒の入り」から9

目目に降る豊作の兆しとされた「寒九の雨」を農家は待ち焦がれていた時代もあった。昨年の正月は順調な降雪で毎日除雪機が活躍したが、今年は積雪が少ない。燃料費の高騰で暖房費や除雪機の燃料費が少なくて済むとの声は観光関係者には辛い声かもしれない。積雪の少ない今は、訪れてほしくない「寒九の雨」なのだろう。

年末年始に大町市に出掛ける事が多かったが、国道148号線は驚く程に渋滞が無かった。観光客の入込みが気になり観光関係者に状況を聞くと一様に

「昨シーズンよりは良いのでは」「外国人が多数に見えるほど日本人が少ない」「食品など多くの生活必需品の値上がりが続き旅行気分にならない」などスポーツを前面に出しての誘客は、困難に直面

「地域全体で」の発想が求められている

買物に行くたびに、高騰する商品価格。同じ価格の商品は量など内容量が減少したのかと思わず見てしまう。物価優等生のタマゴの価格も、じわじわと値上がりしている。飼育飼料の高騰や鳥イ

は勇、食を見て相呼ぶは仁、夜を守って時を失わぬは信」であり五感があるときれた。日本の養鶏は欧米の飼育環境に比べ恵まれておらず、鶏卵価格下落時の収入補填を巡り政界への贈賄問題が起きた記憶も新しい。養鶏業者を取り巻く苦境に、素早く対応する政策に期待し、更なる価格高騰に対応してほしいと願っている。

経済学には、企業同士の競争は、どんぐりの背比べが望ましいとの教えがある。抜きんでた企業が現れず、似たり寄ったりの無数の零細業者が競争を繰り広げれば、消費者に最も有利な価格が実現すると。世界経済の一翼を担うべき日本が、この考えから新しい着眼



長野市内「角上魚類」の年末、朝3時から開店には家族連れが多く大盛況だ

点で経済運営を執行してほしいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)